

試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません

令和4年度個別学力検査(後期日程)

小 論 文

(畜産科学課程)

試験時間 90分

注意事項

- 1 問題用紙はこの表紙と2枚目の白紙を含めて3枚です。
- 2 この問題用紙のほかに、解答用紙が2枚、下書き用紙(色のついた用紙)が1枚(両面)あります。
- 3 解答開始の合図の後、解答用紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 4 解答は、解答用紙の所定欄に記入すること。うら面に記入したものは採点しない。
- 5 問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰りなさい。

(白 紙)

問題

我が国では、有機農業を「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業」と定義している（農林水産省ホームページより）。

有機農業は、生物多様性の維持や資源の循環など、農業生態系の健全性を促進する包括的なシステムで、そこで用いられる栽培方法は、慣行栽培^{※1}や減農薬栽培と比べ、(1) 周辺環境を含めた生物群の多様性を高めること、(2) 温室効果ガスの排出量を減らすこと、(3) 水質保全や土壌肥よく度^{※2}を高めることが明らかになっている。農林水産省が食料生産と農業生態系の持続との両立を実現させるために策定した「みどりの食料システム戦略」では、2050 年までに我が国における有機農業の取組面積を 100 万 ha に拡大するという目標を掲げている。しかしながら、その面積は 2018 年現在でおおよそ 2.4 万 ha にとどまっており、その理由として、有機農業は従来型の栽培方法に比べて病害虫・雑草対策が難しく、労力を必要とするわりに収量が上がらないことなどが挙げられている。

そこで、あなたが将来、帯広畜産大学で学ぶことで、どの様に有機農業の促進に貢献できるかを 1,000 字程度で述べなさい。

※1 慣行栽培：作物の生産過程において農薬や化学肥料を使用する、一般に行われている従来型の栽培方法。

※2 土壌肥よく度：作物の生産を維持する土壌の能力。